令和８年度　　新陵東小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：27515

実態

「学ぶ力」

これまでの成果	課　題
◇児童アンケートは、昨年度同様に、授業への意欲や進んで自分の考えを伝えたり、友だちの意見を聞いたりすることに関して、肯定的な回答が多く見られた。「授業に集中して学習に取り組んでいますか。」という質問に対して肯定的に答えた児童は、89%。また、「授業中、進んで自分の考えを伝え、友達の意見を最後まで聞いている。」に対しては、全体の 89%だった。札幌市共通指標の結果でも、「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。」という項目に対しての肯定的な意見は８５％と昨年度と高い水準である。 ◇R７年度は AAR サイクルを基盤とした授業改善を推進し、子どもの思考のプロセスに沿った「個別探究」と「協働探究」の時間を設定した。単元の中に学校での学習が社会に生きて働く経験となるような「本物の経験」を位置付けたことで、単なる知識の習得に留まらず、学んだことを基にして自分の考えを再構築し、自身の言葉で表現しようとする自律的な学習態度の育成に繋がった。	◇令和７年度 NRT 学力テストの結果から国語・算数に関する得点は全国平均よりも低くなっている。また、個人差が大きいことも明らかになっている。 ◇教職員アンケートの結果からは「進んで『話す』最後まで『聞く』」という項目に対して評価得点が低く、肯定的に回答したのが 61%で、教職員と児童の捉えに大きな乖離があることが分かった。教職員アンケートでは、教職員が考える「よい話の聞き方」が児童と共有できていないこと、学校全体として「学ぶ構え」の共通目標が必要であることが課題としてあげられた。 ◇保護者アンケートの結果からは、「モバイル機器のルールを守って使用している。」の項目で「どちらかといえばそうは思わない。」「そうは思わない。」という否定的な回答が 30%にのぼった。同様に、教職員アンケートにおいても、学習用端末の使い方や校内ルールの定着に関する課題が挙げられている。 ◇児童のアンケートの結果、学習意欲や学びの実感について、子どもたち自身は高く評価していることがわかるが、学力テストの結果から、得点になかなか結び付いていない。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く**相互承認の感度**〉　の現状と課題

◇札幌市共通指標の結果からは、「自分にはよいところがある。」「人の役に立つ人間になりたいか。」という項目において肯定的な回答が９割と多く、自己肯定感や思いやりの精神が育ってきている。一方で、「自分が必要とされていると感じる。」という項目に関しては、人間尊重の教育に関する質問の中で、ほとんどの学年で肯定的な回答が最も少なかった。これまで以上に、一人一人に役割をもたせ、責任を果たしながら縦割り活動やクラブ活動、委員会活動、学級活動の中で、相互承認の感度を高めていく手立てが必要である。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力　「本物の経験」が表出される場を通して実感する　知識・技能

取組

AAR サイクルの視点で捉え直した **課題探究的な学習**の推進

◇「本物の経験」として表出できる場を単元に位置付ける
→AAR サイクル、それぞれの段階にあった６つの「本物の経験」を表出する場(札幌市の教育 P,7)を意図的・計画的に設定する。

◇子どもが学びを実感できる振り返り・まとめる活動
→それぞれの教科、単元で自分たちの学びを言葉や図、表などにまとめる活動を行う。自らの変容や学びの手応えを子どもたちが実感できるように、教師が手立てを講じ、児童の質の高い、深い学びの実現を目指す。

さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく **自治的な活動**の充実

◇よりよい学校生活を送るための学級活動の充実
→学びの構えや学校での過ごし方などを大切にし、誰もが安心して学習に向かえるよう、目標・仕組み作りをしていく。

◇子ども自らが学びのコントローラーをもてる、委員会や縦割り活動の実践
→自らの興味関心や学校全体のことを考えた「子どもの声」を基に、テーマを設定し、児童自身が活動を企画したり、調べたりすることを推進する。また、中学校や地域とも連携を図り、活動の充実を図る。

〈本プログラムの実行に向けて〉

新年度
◇本プログラムの共有
・B up meeting①(５月８日)
・パートナー校との共有

〔一人一人の教職員〕
◇日常の授業・教育活動
◇各自の研修・札教研、年次研修等

〔学校全体〕
◇教科グループでの授業検討
◇校内 OJT 研修（研修日）
◇全校研、授業後の分科会

次年度へ
◇学校評価・教育課程全体会
◇成果と課題を共有
研究全体会(２月５日)